

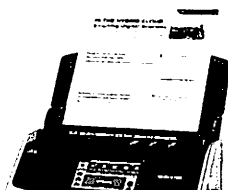
Feature

使いたいときにさっと使えるストレスフリー設計

シンプルに心地よく使えるような快適操作を追求しました。

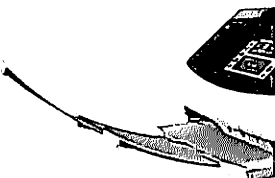
給紙カバー(原稿台)

A4サイズの紙を給紙カバーのエクステンションを伸ばすことなく安定してセットできます。



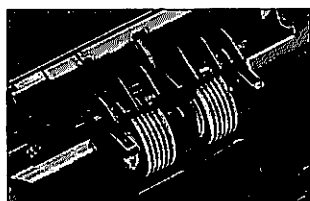
スタッカー

スタッカーを引き出す導線をストレートにし、ワンアクションで引き出せます。



安定した給紙を実現

世界トップシェアの業務用スキャナー*で培った給紙技術を継承し、「ブレーキローラー」による原稿分離方式を採用。原稿を1枚ずつ高速に送り出すことが可能になり、マルチフィードによる読み取りエラーを抑止します。

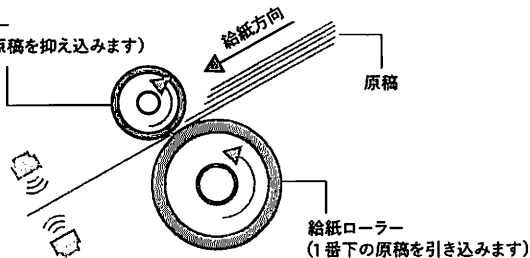


※ドキュメントスキャナーを対象とする。

日本・北米はKEYPOINT INTELLIGENCE社(InfoTrends)により集計(2016年実績)ドキュメントスキャナー集計より Mobile/Microを除く6セグメントの合計マーケットシェア(主に8ppm以上のドキュメントスキャナー全体)欧州は infoSource社(2016年実績)の集計に基づく、西欧地区(トルコとギリシャを含む)におけるシェア

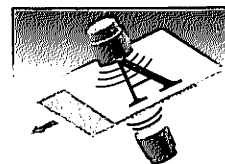
ブレーキローラー

(2枚目以降の原稿を抑え込みます)



「超音波方式マルチフィードセンサー」を搭載

業務用スキャナーで好評な「超音波方式マルチフィードセンサー」を搭載。マルチフィード(複数枚数重なった状態での紙送り)を確実に検出し、トラブルを未然に防ぎます。



優れた搬送性を実現するための機能

スキュー(原稿が傾いて給紙されること)を抑える優れた機能を搭載しています。

「サイドガイド(原稿の突き当て)」の長さを十分に確保しています。

原稿を分離する部分の圧力(分離部付圧力)を高めています。

上に載っている原稿がおもりとなり、給紙安定性のよい「下取り給紙方式」を採用。



「縦筋軽減」機能で、きれいなイメージデータを保存

画像に縦筋が入る場合に画像処理により縦筋を軽減します。



従来



iX1500

※検出条件に合った縦筋だけが軽減されます。
※ScanSnap Home、ScanSnap Cloud利用時。

「GI」プロセッサによる高速処理

デュアルコアCPUを搭載した「GI」プロセッサを採用。スキャナー本体での画像処理実現と共にWi-Fiにも対応。コンピュータ、スマートデバイスのどちらでも、ストレスを感じることなく原稿を電子化できます。

Network

クラウドサービスへの直接連携がさらに進化

「ScanSnap Cloud」との連携で、4つの種別のクラウドサービスへの自動振り分けを実現。さらにiX1500はタッチパネルで指定したクラウドサービスへの直接連携を可能にしました。



Wi-Fi 2.4GHz/5GHz帯に対応

通常使われる2.4GHz帯に加え、5GHzの周波数帯にも対応。5GHzの周波数帯は電波干渉に強く、安定した通信が可能です。5GHz帯のみで運用されている学校や、企業でも安心してご利用いただけます。



Wi-Fi環境に合わせた2つの接続モードに対応

アクセスポイント接続モード

オフィスやホームなど、Wi-Fi環境がある場所では、アクセスポイント経由でコンピュータ、スマートデバイスと接続します。

ダイレクト接続モード*

外出先や移動中など、Wi-Fi環境のない場所では、iX1500がアクセスポイントとなり、コンピュータ、スマートデバイスの直接接続が可能です。

※ダイレクト接続モードの場合は、2.4GHz帯のみとなります。